

## 令和5年度「六甲山森林整備戦略」森林整備に関する研究会 議事要旨

開催日時 令和6年3月13日(水) 10時00分～11時45分

開催場所 神戸市役所4号館1階本部員会議室+オンライン

### 1. テーマ別調査 市街地に隣接した森林における低林管理【新神戸駅北側】

- ・イノシシ被害が顕著ということであれば、掘り返し頻度などを調査してはどうか。
- ・土壌流出の規模と原因は、斜面が急できていないが、現地はイノシシの攪乱や傾斜による落下はあるが、雨滴による浸食の様子はない状況である。
- ・幹が複数あると、地上部の発達に対して地下部（根系）の発達のバランスが悪くなることが確認されている。地上部にあまり差異がないという結果であるが、萌芽の除伐によって地下部の成長に効果が出ている可能性があるため、半数伐採は継続してはどうか。
- ・耐乾性があるコバノミツバツツジの枯死については対応を考える必要がある。
- ・どれくらいの周期での管理を考えているか。数年周期で刈り込むのであれば、低木林管理が適切である可能性がある。
- ・想定より樹木が大きくなるのが早い。長い期間をおくと大きくなり危険である。

### 2. テーマ別調査 森林植生に対するイノシシの影響とその対策

- ・イノシシの個体数は豚熱の影響により令和3・4年に急激に減少したが、思ったよりも減少せず増加傾向にある。林床へのインパクトが大きいので、可能であれば捕獲を進めた方がよい。このあたりは兵庫県で最も生息密度が高い。
- ・森林整備をしたうえで柵を設置するとリターが回復していると読めるが、それなら現状下層へのインパクトが大きいと考える。可能なら捕獲を進める。県がGPSで行動調査をしているので、捕獲と連携できれば。
- ・豚熱は、現時点で六甲山において終息傾向かは未確認。昨年2月の捕獲で確認された以降は陰性。弱い個体は死に、強い個体が免疫を獲得繁殖している。
- ・植被率が減少している点が気になる。リター被覆率が100%に近いのですぐに侵食を受ける心配はないが、未整備のところとあまり変わらない状況である。イノシシの影響と共に、元々の整備効果をもう一度検証する必要がある。
- ・緑被率が大きく減少している要因としてクサイチゴの減少がある。ただ、他種の実生やシダの生育は確認されており、効果が表れていると考えられる。夏から冬にかけての減少は冬枯れの影響もある。
- ・可能であれば、昨年度実施していた自動撮影カメラによるモニタリングを続けるとよい。

### 3. テーマ別調査 照葉二次林における小面積皆伐による更新（シラカシ群落）

- ・10m×10mのギャップサイズは狭いのでは。周囲のシラカシの成長によりギャップが閉鎖

し、植生が元に戻る可能性がある。

- ・照葉樹林の自然林のギャップサイズは 100 m<sup>2</sup>程度であるが、落葉樹を更新させたいのであれば、もう少し大きめ（15m×15mくらい）がよい。
- ・カラスザンショウ林でよいのか、エノキ、ムクノキ、モミジがよいのか、検討が必要である。目標があるのなら、追加植栽してはどうか。
- ・タラノキなどの先駆樹種は、このギャップサイズでは消失していくと推測される。同じ先駆樹種でも生育のよいカラスザンショウに負ける。
- ・今後シラカシ群落を整備する際は、同様の調査を実施するとよい。

#### 4. テーマ別調査 照葉二次林における小面積皆伐による更新（マテバシイ群落）

- ・全伐する場合には、埋土種子や周囲からの供給など、伐採後の再生ポテンシャルの評価が必要（要因は不明だが、光環境が変わって実生発生の報告もある）。ポテンシャルが低ければ、苗を導入する必要がある。
- ・六甲山系は渡り鳥が多いので、鳥による種子散布が期待できる。
- ・防火帯としての役割も再評価が必要。
- ・マテバシイ林の果たしてきた土壌保全の役割と、今後増えすぎても困るという面のバランスが大事である。

#### 5. テーマ別調査 シラカシ群落に混生したニセアカシアの駆除

- ・環状剥皮の過去事例では、根萌芽の発生や、対象木がすぐに腐朽して倒すのが大変になることが課題で、伐採して根に薬剤注入をするのがよいという結論になっていた。参考にしてほしい。
- ・環状剥皮の際に道管部分を切らないようにしなければならない。きちんと処理すればそれほど萌芽は発生しないはず。丁寧に施業し、3年で根絶できた事例もある。

#### 6. 新規整備エリアの整備方針

- ・イノシシの生息密度が高いエリアであるため、整備後にイノシシによる攪乱が生じることが予想される。可能であれば、自動撮影カメラや掘り返し痕の確認などによるモニタリングを実施すべき。伐採後に植栽するのであれば、防護柵の検討も必要。
- ・列状間伐は、根系が弱い部分を線状に作ることもなるので、0字谷を避けるなど、地形を見ながら実施すべきである。崩壊が起きないように留意が必要。
- ・バードウォッチングが盛んで、市民利用も多い場所なので、事前に丁寧な説明を行うべき。
- ・リョウブやネジキの垂高木は高木層があつてのもの。倒伏を防ぐために、幹の数を減らし安定するようにした方がよい。
- ・二次林では照葉樹林化を抑制、夏緑樹林を目標林と設定しているが、照葉樹林に戻るのがよいという考えもある。いきなり原生林には戻れず、現在は途中段階である。今の表現だ

と照葉樹林化がよくないとも取れるので、「照葉二次林化」などの言葉がよいのでは。